

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	J.M	学部・学科	国際所学部国際商学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
コース名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 7 月 10 日～ 2025 年 8 月 10 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は文法やリスニング、ライティングなど、日本でも行うような一般的な授業と、アメリカの文化について学習する授業、コミュニケーションの授業などがあった。文法の授業などは、やっていることは日本のものとほとんど変わらない。むしろ、多くの人にとってはかなり簡単な部類であると思う。難しいものは全くなく、進行形にするかどうか、状態動詞とは何かのような中学高校でやったことの復習のようなものだった。ライティングに関しては、先生が決めたテーマに対して短いエッセイを書いて添削してもらうというものだった。リスニングについては、英語のポッドキャストを利用して学習していくというもので、2分程度の短いポッドキャストのリスニングや、自分で1分程度のポッドキャストの台本を書きスピーキングをするなどの課題があった。また、どの授業でもグループワークが用いられていたことが印象的だった。授業の内容というよりは、グループワークの方が大きな学びになったと思う。グループワーク相手は日本人がいることもあるが、基本は韓国人やサウジアラビア人、中国人など違う国籍の相手であるため、すべてのコミュニケーションを英語でしなければならず、常にスピーキングの練習をしている状態になっていた。授業内容について英語で話すのは簡単だが、それが終わった後に英語で世間話をするのが最初の方は難しくて手間取っていた。そこで友達になった外国人と授業後に遊びに行くこともあるので、授業内容以外のこともグループワーク中に話してコミュニケーションをとっていくのが、英語の学習にもなるし、大切だと思った。印象に残った授業の課題としては、知らない人 20 人にインタビューするというものがあった。内容は簡単なアンケートを取るというもので、自分はバスの運転手や乗客にインタビューしたが、道行く人に声をかける課題というのが新鮮でとても面白かった。声をかける前に準備はしたが、その通りに会話が進まなかった場合も多く、いい練習になったと思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

いろいろな授業を受けてきましたが、その中で一番大きな気づきは「スピーキングの大切さ」だったと思います。日本の英語の授業は、文法や単語をしっかり覚えることに重きを置いている印象があります。自分もそれなりに文法の知識はあるつもりでしたが、実際に話そうとすると全然うまく口に出てこないことに驚きました。例えば、ちょっとした疑問文を作るときでさえ、「この語順でよかったかな」と考えながら話してしまい、言葉がスムーズに出てこないことがよくありました。

それに比べて、授業で一緒に会話した他の国の学生たちは、私と同じくらいの文法力なのに、とてもスムーズに話しているように見えました。彼らはきっと、自分が言いたいことをすぐに頭の中から引き出して、そのまま声に出せるのだと思います。多少文法が間違っている、気にせず伝えようとする姿勢があるからこそ、会話力が伸びているのではないかと感じました。この経験を通して、英語を学ぶには知識を増やすだけでなく、それを実際に声に出して使う練習がとても大事なのだと実感しました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

アメリカに 1 か月間留学して、一番大きく変わったのは英語に対する気持ちでした。行く前は、正しい文法や発音を意識しすぎて、間違えるのが恥ずかしいと思っていました。授業についていけるかどうか不安でいっぱい、英語を話すこと自体に緊張していたのを覚えています。ところが実際に授業を受けてみると、クラスメイトたちは文法の正しさよりも、まず「伝えようとする姿勢」を大事にしていました。多少間違っているでも堂々と話す姿を見て、自分も完璧を求めすぎる必要はないと感じられるようになりました。そのおかげで、以前よりも積極的に発言できるようになり、英語を話すことが楽しいと思えるようになりました。留学を通して、自分にとって英語は「勉強するもの」から「コミュニケーションのための道具」へと大きく変わったと思います。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で、英語は知識として理解するだけでなく、実際に使って初めて身につくものだと感じました。これからの学業では、授業で学んだ表現や文法をそのままにせず、積極的に会話や発表の場で使っていこうと思います。また、間違いを恐れずに発言する姿勢を大切に、実際に声に出して練習することで、自分の言葉として定着させたいです。さらに、異文化の中で学んだ柔軟な考え方を、今後の学び全体にも活かし、知識を応用する力を伸ばしていきたいと考えています。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.K	学部・学科	国際教養学科 国際教養学部
学 年	2 年	派遣国	アメリカ（サンディエゴ）
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
コース名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 7 月 10 日 ～ 2025 年 8 月 10 日		

（1）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）

（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

時間割について。月曜日と水曜日の午前中は 20 人程度のクラスで文化や発音、リスニングやスピーキング。午後は 10 人程度のクラスでライティングの授業が行われた。火曜日と木曜日の午前中はコミュニケーションや文法。午後はリーディングのクラスがあった。そして金曜日は午前中のみでクラス関係なく、グループで大学内を探検して英語の問題を解くなど、実践的で活動的な授業が多かった。

授業について。文化、発音のクラスでは黒人のプロ野球選手について、ペアになって調べてパワーポイントを作り、プレゼンテーションを行った。内容自体はそんなに難しくなかったがペアと英語でコミュニケーションを取らなければならないため、プレゼンの内容を話し合うこと、そして調べたことを共有することに苦戦した。リスニング、スピーキングの授業では私たちのクラスでは Podcasts がメインテーマであった。初めはお手本の Podcasts を聞き、内容を理解する授業であったが最終的には自分の Podcasts をつくることが課題であった。お手本の Podcasts について、ネイティブで早かったため聞き取るのにかなり苦戦した。ライティングでは、先生から出されたテーマに対して compound と complex を用いて文章を書くという授業であった。また、それぞれが書いてきた文章を 1 人ずつ前のホワイトボードに書き、クラスで完璧な文章にしていくという作業を行った。午後の授業は人数が少なく、かなりアットホームな雰囲気で行われたため、リラックスして受けることができた。コミュニケーションの授業ではアメリカで昔から放送されている番組のゲームを真似した。文法の授業では現在形なのか進行形なのかの違いについてクイズやグループワークを通して学んだ。リーディングのクラスではテーマに沿った文章を読んで問題を解いた。初回の授業で自分が選んだ本について最後の授業までに 30 ページ程読み、先生にその内容を説明するというのが最終課題でとても面白かった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

アメリカの文化や歴史、日常生活のことや常識について学校でも多くのことを学ぶことができたと思う。しかし、私が最も印象に残ったのはライティングの授業である。今までも高校などで英語で自分の意見を書く機会は多くあったが、書き方についてこんなにも詳しく、徹底的に、さらに少人数のクラスで教えて頂いたのは初めてだったのでとても多くのことを吸収することができた。また、今まではただ文章を書くことに集中していたけれど SDSU では compound と complex を意識して、ネイティブの正しい英語、また複雑にしようと思わずに分かりやすい単語を用いて書くことを意識することで一気にまとまりのある、文章になった。また今後も英語で文章を書く練習を行いたいと思った。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

英語でコミュニケーションを取ることにに対して積極的になった。初めは自分の英語力で相手に自分の意見や考え伝わっているかどうか、うまく文章で伝えられないことが悔しくて他国の友人やファミリーたちと会話することを恐れてしまっていた。しかし、SDSU での授業を通して、特にペアワークやプレゼンテーションなどコミュニケーションや英語で話すことが必須な環境に置かれることで単語でも文章でもとりあえず発言したり、自分の意見や考えを伝えてみようという意識が高くなった。実際、上手く文章に出来なかったり、正しい文法が使えなかったりということの方が多かったが伝えようという気持ちがあれば相手には伝わるし、汲み取ろうとしてくれる友人や先生が多かったので英語でコミュニケーションを取ることにに対して怖いという気持ちよりもどのようにしたら相手に伝わりやすいのか、などを考えられるようになったと思う。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回、サンディエゴの留学を通して他国の人々と言語の壁を越えてコミュニケーションを取ることができることの楽しさや英語を勉強することの素晴らしさについて改めて強く感じた。また、留学を通して英語に対するモチベーションが以前に比べてかなり上がったと思う。そのため、今後は TOEIC などの試験を積極的に受験したい。その一方で、TOEIC などのテスト勉強することと英語で会話ができるようになることは全く違う勉強が必要であることを留学を通して実感した。そのため、今後は試験のために勉強するとともに英語でとくにきちんと文章で会話ができるように実践的に会話の練習をしたいと思った。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.O	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
コース名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 7 月 10 日～2025 年 8 月 10 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

月曜日から木曜日は1コマ75分の授業が3つあった。内容は月曜日と水曜日がアメリカ文化、リスニング&スピーキング、ライティングの3つで、火曜日と木曜日がプレゼンテーション、文法、リーディングの3つだった。金曜日が2コマ分の時間で1つの授業を受けた。内容はグループ学習のような感じだった。アメリカ文化は、単語の発音や意味を覚えながら実際に使えるようにするためにグループで会話をしながら学んだ。最後にこれまで学んだ単語を使用してカリフォルニア州で行った場所訪れたい場所についてのプレゼンテーションを行った。課題はあまりなかったが、プレゼン前はスライドの提出などがあった。リスニング&スピーキングの授業はリスニングが主な内容だった。教科書をもとに語句の確認や聞き取りなど聞いて考える授業だった。水曜日に課題が出されて月曜日の授業までに提出、月曜日に確認テストを行っていた。最後の週にはその確認テストから最終テストを行った。ライティングの授業は初回に力試しのような感じでお題に対して書いてそれ以降の授業では、ライティングの3部構成の書き方や、どのように文章を構成するかを学んだ。ライティングも最後にテストがあった。課題もジャーナルと言って、1日1つのトピックに対して200語程度書いたものをまとめて提出するものがあった。この課題が一番大変だったが、翻訳機を使用せずに辞書をたまに使用するなど自力で書く力を身に付けることができると思うのでよかったと思う。コツコツやらないと最後にまとめてやらなくてはいけなくなり大変な思いをしている人も中にはいた。プレゼンテーションはプレゼンテーションをするにあたって大事なことや、どのように構成を作るかを学んだあと、自分の友人に対してクラスの前でプレゼンテーションをした。特に課題はなかった。文法は使用する教材がデジタルで配布され、パソコンやスマホを使用しながら授業を受けた。友達と話しながら問題を解いていくのがメインの形だった。学んだ内容は、現在完了形、過去完了形、未来完了形や未来の予定の表し方などだった。授業中に終わらなかったものが課題になる感じだった。リーディングは記事を読んで質問に答える、映画をみてその内容に関する質問に答えるなど様々なことをした。記事を読むときにわからなかった語句をクラス全体でまとめ10個くらいを品詞、意味、例文を調べて授業までに提出する課題があった。また最後に、文字メインのスライドを作り自分の家族のことや将来のことに関してプレゼンテーションを行った。

金曜日の授業は毎週やることが異なっていて、1週目はスーパーマンについて学びグループで漫画を作った。2週目はグループで校内を散策しお題を写真でとってきたり書いてきたりとした後に違うグループに分かれ報告をした。最終週はサンディエゴに関してグループでプレゼンテーションの資料を作った。金曜日の授業が1番主体性が必要でみんなと特に話しながら行う授業で楽しかった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

サンディエゴの地域のことだけでなくカリフォルニア州に関しての文化や地域特色について学ぶことができた。また、ちょっとした言葉の言い回しや活用に関しても授業中にグループで話すときや先生と話すときに学ぶことができた。授業の受ける姿勢として、日本では特に大学は講義がメインで生徒は聞くだけの授業が多いが、今回のサンディエゴ州立大学での授業は積極的に発言をしていくことが大事だなと感じた。特に最初のほうでイタリアやサウジアラビアからきた人は積極的に発言するのに対して日本人はあまり発言をできていなかったのも、日ごろから発言をしていないことが今回の留学でもわかった気がして、もっと疑問に思ったことがあるときはもちろん、理解しているのを示すためにもアクションをとることが大事だと感じた。どの授業でもグループで考えたり話したりする時間が多くあって、その中でどれだけ自分の考えていることを英語で分かりやすく説明できるかが大切であると感じた。そのためには多くの英単語を知っている必要があるのも、語句をどれだけ知っているかはとても重要だと感じた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように(気持ちなどが)変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、授業が全部英語で行われることから、授業をしっかりと理解できるかなどついていけるかが不安だった。特にどのような感じで授業が行われるのかの想像もなかなかできなかったのも、不安に思うことが多かった。しかし、授業を1か月受けていく中で不安に思うことはなくなっていった。先生が丁寧で優しくユーモアのある先生たちばかりであったことが大きいと思う。1か月の授業を通じて、先生が言っていることもしっかりとすべて理解することができたので英語力も向上したと思う。授業とは少し離れてしまうが、1か月間アメリカで生活したことで、いろいろなところに行ったり、ホームステイでの生活であったりと必然的に英語を使用しなくてはならない場面が多くあったことで、英語を話すことの抵抗がなくなったように感じる。また、海外の人ともっと話したいと思うようになった。特に、バイトの接客において外国の方が来た時に私たちがアメリカのお店に行ったときのように積極的に会話したいと思った。

(4) 今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今後の生活でもっと積極的に自分から動いていけたらと思う。留学を通して自分たちでどうにかしなければならない状態が多くあった(遊びに行った先やご飯を食べに行った先、公共交通機関など)ので、日本でもまず自分たちで考えて行動する力を生かしていきたいと思う。また、授業にも積極的に参加したいと思う。これからゼミ活動が始まり今までのように講義ばかりではなくなり、積極的に活動していかなければならないことが増えると思うので、留学時のように学業に関しても積極的に取り組みたい。また TOEIC を受けるなどして自分の英語力試しをしたり、もっと英語力を身に着けることができるように英語も学んでいこうと思う。